



ロシア：「対極」の世界から (4) ～ ロシアに於ける野球 ～

ロシア連邦・サンクトペテルスブルグ国立大学留学中
服部 祐也

今回はロシアに於けるマイナースポーツ、野球の現状につきご紹介します。

1、はじめに

企業のロシア語研修生としてロシア・サンクトペテルブルクに赴任してから一年が経過しようとしています。将来のロシアビジネス開拓・発展に貢献する為の知識・見識を付けるべく、私はロシア語学習に留まらず、人々のバックグラウンドを構成するロシアでの生活の体験にも注力しています。今回は、ロシアに於ける野球についてご紹介させていただきます。

2、ロシアに於ける野球

日本やアメリカに於いて非常に人気である野球。しかし、世界的に見るとその競技人口が非常に少ない事に驚かされます。Wikipediaによれば、全世界の野球競技人口は1,200万人であり、バスケットボール（4億5千万人）やサッカー（2億4千万人）の足元にも及びません。

ロシアに於いて国民に人気があるスポーツはサッカーやアイスホッケーです。一方、野球はマイナースポーツで、ほとんどの人がルールすら知りません。しかし、マイナーではあるものの、国内野球リーグが存在します。少々専門的な話になってしまうかもしれませんが、以降、ロシアに於ける野球の項目別ご紹介です。

● ロシアでの野球の規模

－1,000人程度の競技人口－

全ロシアには野球チームが11個あります（内9個が在モスクワで、モスクワ近くの街ヤロスラブリと当地サンクトペテルブルクにそれぞれ1個ずつ）。1部リーグのチームメンバーには、少額ながら国から給料が支給されるようです。現在の全ロシアでの野球競技人口を尋ねると「1000人いるかなあ」と回答されることから察するに、（個人的にはもっと少ないと思いますが）1000人弱程度の規模感なのだと推定されます。尚、野球人口はソ連崩壊前の方が多かったらしく、ソ連崩壊後の経済危機が原因で、国からの援助が減り、競技人口が減ってしまったと、私のチームの助監督が話していました。

また、現在全ロシアにある野球専用球場は3つのみで、全てモスクワにあります。当地サンクトペテルブルクに野球専用球場を建設する為には21歳以下の選手が強くある事が必要条件ですが、残念ながら同チームに21歳以下は4人しかおらず、現状どうする事も出来ません。サンクトペテルブルクでは野球用具はどこにも売っておらず、インターネット等でモスクワ経由で海外から用具を購入しなければならない程、競技環境に恵まれていません。

● ロシアの野球戦術 - 淡泊 -

私がこれまで対戦したのは2チームのみですが、どちらの試合でもロシアの野球は淡泊である、と感じました。

まず、打撃です。強いチームであれば直球に対しては減法強くホームランをたくさん飛ばしますが、一方で、変化球にはほとんど手を出しません。私がキャッチャーとして、途中から変化球中心の配球にした所、途端に相手チームは点数が取れなくなりました。

次に、戦術です。ヒット・エンドランを仕掛けられた事は一度もありませんし、盗塁もほとんどありません。セーフティーバントの構えで相手の守備を揺さぶる事も、記憶の限りでは見たこともありません。守備側のトリックプレーもありません。



野球専用グラウンドが無い為、当地ではサッカー場に移動式ベースと木製ピッチャーズマウンドを置いて即席グラウンドを作る